

町長に聴く！

# 就任1年を迎えて



斜里町長

## 山内 浩彰

はじめに

「まず最初に、昨年実施された北海道厚生局の適時調査で指摘を受け、斜里国保病院の診療報酬返還について、町民の皆様にご心配とご迷惑をおかけしたことに、深くお詫び申し上げます。詳しくは、今後『病院だより』に掲載いたしますので、ご一読頂ければ幸いに存じます」

この1年を振り返った感想

「あつという間の1年でした。でも思い返してみると、就任した令和5年5月1日がずいぶん昔の様に思えます。最初の定例会議での一般質問への答弁が、遠い昔に感じます。とても

密度の濃い1年だった印象です」

町長に就任し、成し遂げたと実感していることは？

「まだまだ何かを成し遂げたという実感はないです。ただ、就任して最初の定例会議において補正予算を提案させて頂き、承認頂きました。『高校生までの条件なし医療費の無償化』は私の公約の一部でもありますので、すごく印象に残っている政策ですね」

これからの斜里町が抱える課題について

「課題は、沢山あると思います。特に人材不足、これは官も民もどの業種業態においても大きな課題です。また、行政でいうと公共施設が老朽化に伴い更新が待ったなしの状況です。第7次総合計画の大型事業の中にも入っています。給食センター・保育園・病院など沢山の施設が対象ですので、それこそ計画的に適期を逃さず事業を進めていかなければならないと思っています」

そのような課題にどう取り組んでいく？

「まず、5月1日に開催された令

和6年招集会議において承認頂いた町民の皆様の思いが込められた『第7次総合計画』を具現化していくことが私に課せられた使命だと認識しています。そのことから、

政策を実施する体制を整えることが重要であり、新年度のスタートと同時に総務部にふるさと納税やDX推進、斜里町の魅力創造を所管とする『政策推進課』を設け、様々な視点で政策を前に進めるための体制を整えました。すべての課題をこの『政策推進課』が所管して行う訳ではありませんが、部署間横断的に横串を刺して企画し、政策を前に進めていく事を役割としています。また、多くの町民の皆さんが期待している『温浴施設』についても、この『政策推進課』が中心となってプロジェクトチームを設け計画を進めていきます。そして政策を実現するためには、財政を度外視してという事にはなりませんので、財政の健全性も維持しながら、まちづくりを進めていかなければならないと考えています。その事からも、全国の皆さんから斜里町を応援して頂いている『ふるさと納税』の推進や『宿泊税』の導入など、自主財源の確保を積極的に

進めなければならぬと考えています」

「これは、公約というか私の思いですが、町民の皆様や斜里町に思いを寄せて応援して頂いている方の声を少しでも多く聴くことや、私の方からも私の思いが少しでも多く伝わる様にしたいと思っています。それで、庁舎内の町長室ではなく、移動町長室を例えば道の駅のコミュニティルームで月1回とか2回とか、午後5時半から2時間程度町民の皆さんと懇談の場を設けるなど、少しフランクに言葉のキャッチボールが出来る場を作りたいと思っています。具体的に日程など決まりましたら公式LINEなどでご案内いたします。また、今年には『知床国立公園』指定60周年、来年は『ユネスコ世界自然遺産』登録20周年のそれぞれ節目の年となりますので、町民の皆様とこれまで斜里町・知床を応援して頂いた皆様と一緒に、次の時代へ『知床』を繋いでいくために思いを新たに、記念事業に取り組んでいきたいと思っております」